

堅香子草の花を攀ぢ折る歌一首

四一四三番

もののふの 八十娘子らが 汲みまがふ 寺井の
上の 堅香子の花

帰雁を見る歌二首

四一四四番

燕来る 時になりぬと 雁がねは 国惣ひつつ
雲隠り鳴く

四一四五番

春まけて かく帰るとも 秋風に もみたむ山を
越え来ざらめや